



HAC、奥尻町が進めるホソメコンブ脱炭素化推進を支援 最初のブルーカーボンプレジット購入、ともにサステナブル・アイランド実現へ

北海道エアシステム(以下、HAC)は、ジャパンプルーエコノミー技術研究組合が審査・認証し奥尻町から発行される最初のカーボンプレジットを購入し、様々なeco活動を進める奥尻町とともに脱炭素化を推進していきます。

今般、2025年1月10日に認証を受け発行されたクレジットは、コンブなどの海藻が吸収するブルーカーボンと呼ばれる二酸化炭素(CO2)吸収量を企業と取引するもので、その第一号として毎日島に定期便を運航するHACが購入することにより、島と航空会社が一緒になって、「サステナブル・アイランド奥尻」(*1)の実現を目指す取り組みへと発展させていきます。

HACは、CO2排出量が少ないecoなプロペラ機で運航するとともに、奥尻空港の地上機材をいち早くEV化(*2)し、また今後は、自社機に機外カメラを搭載し、世界初となる定期便航空機を活用した赤潮モニタリングを開始する予定で、将来的には奥尻近海での観測も見込むなど、道民の翼として常に地球環境を意識した取り組みを進めています。

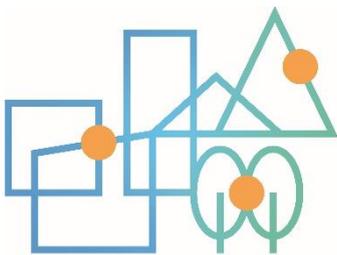
今般、奥尻町、ひやま漁協青年部奥尻支部などで活動する奥尻地区海藻生産・活用調査検討協議会とHACの交流の中で、協議会が独自に養殖し育成しているホソメコンブが光合成で多くのCO2を取り込む性質があり海底に沈めることでブルーカーボン効果が得られる点に着目しました。両者のecoに関する考え方が同じであり、ともに「サステナブル・アイランド奥尻」の実現を目指すことを確認しクレジットの購入に繋がりました。

奥尻町は渡島半島の西約18km日本海に浮かぶ、新鮮な魚介類や奥尻ブルーの海や豊かな自然が魅力の離島です。ecoなプロペラ機で、サステナブル・アイランドの実現を目指す美しい島をぜひご訪問ください。

(*1)奥尻町は、2022年11月に脱炭素先行地域に選定され、コンセプトに掲げた「サステナブル・アイランド奥尻」実現に向けた脱炭素まちづくりを目指して、再エネ・省エネに資する統合的な取組を実施。

(*2) プレスリリース 第23023号「札幌丘珠空港から脱炭素推進「HAC eco AIRPORT」をはじめます」をご参照ください。

(*3) 共同リリース「北海道大学とJALグループが、世界初の定期便航空機を活用した海洋観測を開始します」をご参照ください



脱炭素先行地域

